

公開シンポジウム

「震災からの再生－社会学と計画学との対話／復興に向けて、何をどう考えるべきなのか」

主催：日本学術会議社会学委員会東日本大震災の被害構造と再建の道を探る分科会
共催：日本社会学会、環境社会学会、都市社会学会、地域社会学会

日時：平成24年7月29日（日）13：30～16：30

会場：東北大学 川内南キャンパス 文科系中講義棟 経済学部第3講義室
（宮城県仙台市青葉区川内）

参加申込み：事前申し込み不要

（開催趣旨）

東日本大震災の発災以来、多数の社会学研究者が被災地現地での調査を継続しており、被災地各地の実情や、原発避難民のおかれた状況について把握に努めてきた。それを通して得られた知見を総括すると共に、今後長期的に問われるべき課題である防災と地域再生に取り組むにあたり、重視するべきと思われる視点、論点を中心に理論的な検討と意見交換を深める。その際、自然災害一般の中で東日本大震災の特異性はどのような点にあるのか、「想定外」というキーワードを防災政策の中でどのように位置づけていくのか、科学的知見の限界をどのように自覚しそのことを防災対策にどのように生かして行くべきか、地域再生のための本来のあるべき計画とはどのようなものか、復興や除染やライフコースの再構築という点で時間軸をどのように設定するべきなのか、期限設定を伴う行政施策に対して人々の人生の時間という視点からの見直しが必要ではないか、現在の補償の仕組みと被害者の被害実態のずれはどのようなものか、などの論点を掘り下げていきたい。

（プログラム）

開会あいさつ：山下祐介（日本学術会議特任連携会員、首都大学東京都市教養学部准教授）

I 報告（13：40～15：10）

1) 田中重好（名古屋大学大学院環境学研究科教授）
「津波被災地と防災、地域社会」

2) 船橋晴俊（日本学術会議連携会員、法政大学社会学部教授、日本社会学会研究活動委員長、）
「原発震災とエネルギー政策－補償から地域再生へ」

3) 北原啓司（弘前大学大学院地域社会研究科教授、都市計画学会復興部会長）
「都市計画の視点から震災復興を考える」

II 討論（15：20～16：30）

司会担当 正村俊之（日本学術会議連携会員、東北大学大学院文学研究科教授）
岩井紀子（日本学術会議連携会員、大阪商業大学総合経営学部教授）

討論者 黒田由彦（名古屋大学大学院環境学研究科教授、地域社会学会研究委員長）